

なごみ 日和 Vol.17

和木町の活躍している人を
紹介します



和木町
ふるさとガイドの会
松島みちよ さん

町の観光資源を後世へ伝える、ふるさと案内人。

松島さんは旧三加和町で生まれ育ち、人生の大半をこの和木町で過ごしました。福祉施設で管理栄養士として61歳まで勤め上げ、自分の自由な時間が増えた時、たまたま広報紙で「和木町のことを勉強しませんか？」という記事を見つけました。長い時間をこの和木町で生活をしてきましたが、これまで仕事や日常生活を過ごすだけで、町のことを何も知らない自分に気づき、参加したのが和木町ふるさとガイドの養成講座でした。

実はガイド養成講座だということは知らずに参加していた松島さん。人前で話すことも苦手だったため、活動を断ろうとしましたが、それから10年も活動続けてきた自分に驚いているそうです。観光で町を訪れた人に、八つの神様や田中城、豊前街道の腹切坂、金栗四三翁、日本遺産にも登録された菊池川流域の歴史などを案内し、お味噌汁などを作っておもてなしました。「田中城」での出来事を伝える紙芝居を制作し、町内の小学校を回って披露したり、現在も毎年夏祭りで踊られる「八つの神様行進曲」も制作しました。

子どものころは過ぎたことを学んでどうするのだろうか？と考えていて、歴史の授業は嫌いだったそうですが、歴史を振り返って、これからの未来をどう進んでいくかを考えることが大切ということによって気づきましたと語ってくれました。

新型コロナウイルスの感染拡大による自粛により、活動もなかなかできず、気持ちが下向きになっているとのことでしたが「これから3人の若い人が会のメンバーになってくれることになっている。私も先輩方から受け継ぎながら活動してきましたが、それをまた次の世代に受け継いでもらいながら微力ながらも一緒に活動をしていきたい」と最後にこれからの意気込みを話していました。

協力隊活動記 Vol.37

こんにちは。地域おこし協力隊の水上和磨です。初めてこの活動記を書かせていただきます。今年8月に東京から和木町に引っ越してきて早数カ月がたちました。こちらに来てからまず食べ物の新鮮さ、美味しさに感動しました（特に薬物野菜は違いがよくわかります！）。

最近住まいのある区の公役やお祭りの準備などに参加し、作業を通じて地域の知らなかったことにたくさん触れることができました。まだまだ和木町について知らないことばかりですが、日々の生活で出会ったことや気づきを協力隊の活動に生かしていきます。

